

さかながたがたよ

NEWS LETTER SAKANAKANA WINTER 2019

Vol.104



CONTENTS

- 1 特集
シャチの公開トレーニング ～メインプール編～
- 3 水族館トピックス
- 5 水族研究最前線 ダーウィンの箱
昭和基地からの生物輸送
わたしのスケッチブック
- 6 ボランティア便り／水族館スクールレポート
- 7 アクアインフォメーション

シャチの公開トレーニングでは、シャチの魅力を伝えるため、いろいろな種目を披露しています。また、メインプールにある大型画面ではシャチの貴重な映像や水中の様子も映し出して、生態や行動を紹介している人気のイベントです。現在は展示プールとメインプールで実施していますが、今回はメインプールでの公開トレーニングの様子を紹介します。

2019年の夏は、2012年11月13日に名古屋水族館で生まれたリンが活躍しました。リンは、体長4.7m、体重1,400kg、7歳の子どもです。

見どころ!!

シャチの公開トレーニングの見どころといえば、スタジアムの皆さんの目の前での豪快なジャンプと水しぶき!! ですが、実は見どころがほかにもあります。それは、野生のシャチと同様の行動を見ることができることです。

例えば、胸びれや尾びれを水面にたたきつける行動は野生のシャチにも見られ、水音を仲間への合図に使用していると考えられています。トレーニング中はトレーナーの合図で行いますがリンの尾びれの幅は1.3mもあり、水面を打つ大きな音がスタジアムに響きます。

また、プールの中を勢よく泳ぐと、トレーナーの前に到着する時に大きな波が立ちます。これは南極にすむシャチが、氷の上で休んでいるアザラシを波の力で落として食べる様子とよく似ており、大型画面で野生のシャチの実際の狩りの様子を流して解説しています。波さえも

狩りに使う知的な一面も間近で感じられます。

さらに、横向きで尾びれを振ることで、大量の海水を観客席に飛ばします。野生のシャチは獲物を尾びれでキックすることもあります。この種目ではそうした尾びれのパワーを分かりやすく紹介します。

リンが披露するさまざまなジャンプからはシャチの体の大きさを感じることができます。中でも体の側面や背中から着水するジャンプは、迫力満点です。野生のシャチもこのようなジャンプを行っており、体を水面に打ち付けるようなジャンプはブリーチ(またはブリーチング)と呼ばれています。ブリーチはシャチ同士のコミュニケーションの手段や、遊びとして行っていると考えられています。



お客様の前で高さのある華麗なジャンプを披露!!



大型画面で野生のシャチについて解説。生息域や食性をわかりやすく紹介しています。シャチはいったい何を食べているのかな?



豪快な水しぶきがお客様の方に飛びます。プールの水は海水なので要注意!! 実はトレーナーが一番ずぶ濡れです。

メインプールへの移動訓練 実はひやひや...

リンは2017年夏ごろから、展示プールからメインプールに出るトレーニングを開始しましたが、環境が違う場所に慣れるまでにはさまざまな苦勞がありました。トレーニング中に展示用プールに勝手に戻ってしまうこともしばしば。「メインプールに戻ってこなかったらどうしよう」とトレーナーは内心ひやひやしています。時には、一緒にいるお母さんに

あたかも「ちゃんとトレーナーの前に戻りなさい」というように連れていかれることもあります。リンはまだまだ7歳の子どもの好奇心旺盛なので、気になることがあるとトレーニングどころではなくなります。特に、隣のプールにいるバンドウイルカやカマイルカがかなり気になるようです。そんな場面に遭遇したときは、温かく見守ってくださいね。

今後の目標

リンは、メインプールで披露する種目も増え、さらに体も大きくなったこともあり迫力が出てきました。最近ではオスのアースもメインプールでのトレーニングを始めました。今後も、シャチが野生で行っている行動を中心に紹介し、シャチの魅力と迫力をお伝えしていきたいと思えます。

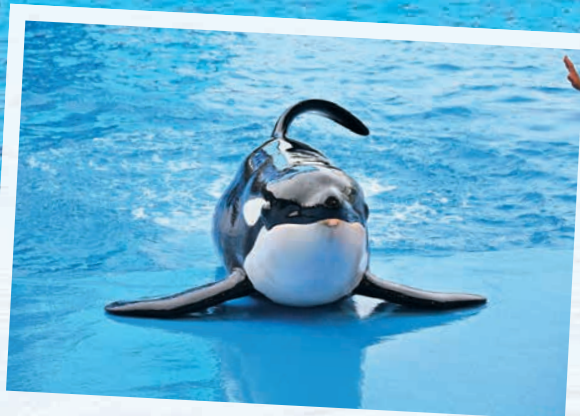
特集

シャチの公開 トレーニング ～メインプール編～

飼育展示第三課 松本 智美



ステージに上陸するとリンの全身が見えます。トレーナーと大きさを比べてみても大きいことがよくわかります。



オスのアースもメインプールでのトレーニングを頑張っています。



水族館トピックス



研究発表では、名古屋港水族館で発生したミズクラゲの進行性穴あき病の経過と処置について発表しました。

第1回国際クラゲ繁殖学会議 に参加してきました



2019年9月20～21日に山形県にある鶴岡市立加茂水族館にて行われた、第1回国際クラゲ繁殖学会議(1st International Jellyfish Breeding Study Meeting)に参加してきました。会議には、国内外の水族館関係者や大学の研究者など、併せて30名ほどが参加しました。

初日の研究発表では、クラゲ展示施設の改良や、各海域でのクラゲ相の調査、飼育水からクラゲ由来のDNAを検出する技術、教育活動としてのクラゲ採集会とマイクロプラスチック問題を融合させた試みなど、さまざまなクラゲについて幅広い研究報告がなされ、今後のクラゲ飼育や教育活動に役立つ貴重な情報を多く得ることができました。

研究発表後には直径5mのミズクラゲ大水槽の前で演奏会や懇親会が開かれ、とても楽しく素晴らしい時間を過ごすことができました。

2日目は、加茂水族館前の海でクラゲの採集、また水族館のバックヤードを見学させていただき、クラゲ飼育のレベルの高さと今後当館でクラゲを飼育する際のヒントをいくつか得ることができました。

飼育展示第一課 坂岡 賢



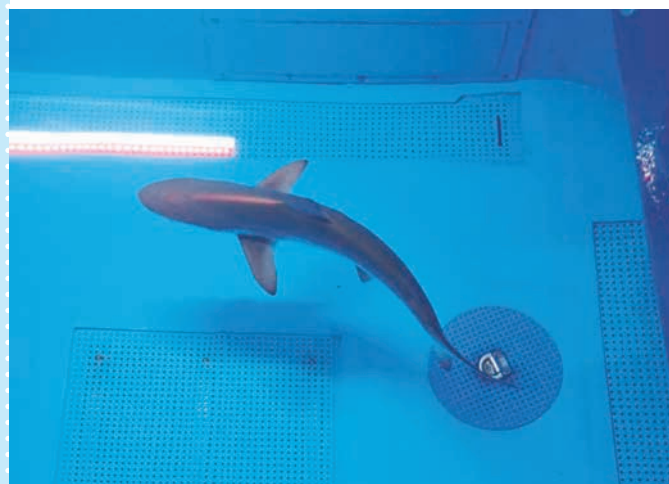
クロヘリメジロザメを 搬入しました

黒潮大水槽に新しくクロヘリメジロザメが2個体仲間入りしました。クロヘリメジロザメは温帯域に生息する遊泳性のサメで、最大で体長3m、体重300kgになり、英名はCopper shark (銅色のサメ)とい

ます。この2個体は体長70cmほどで、サメの飼育種数日本一の「アクアワールド茨城県大洗水族館」より譲渡していただきました。活魚トラックで約8時間かけて名古屋港水族館まで輸送しました。トラックにはわたしも同乗させてもらい、クロヘリメジロザメの状態や水温、水質などを確認しました。名古屋港水族館に到着したのは夜の8時を回っていました。到着して活魚水槽のふたを開け見下ろすと、輝くようなカッパーブラウンのクロヘリメジロザメが悠々と泳いでいました。普段は水槽を横から見る事が多く、近くでまじまじとクロヘリメジロザメを見る機会がありませんでしたが、名前の由来通りの姿を見ることができて感動しました。

ガラス近くを泳いでいるときに、光の当たり具合では美しい体色が見られます。ぜひ観察してみてください。

飼育展示第一課 星野 昂大



名古屋港水族館に到着したばかりのクロヘリメジロザメ。長旅の疲れも感じさせず、元気です。

ナイトウォッチングを 開催しました

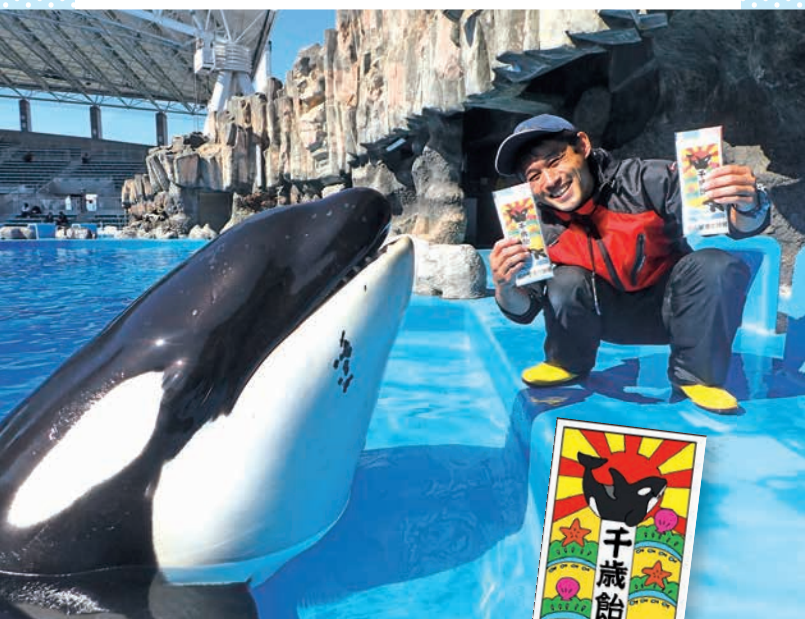


昼間はとてにぎやかな館内ですが、閉館後は日中ほとんど聞こえないイルカたちの鳴き交わしがアクリルパネル越しにはっきりと聞こえ、フロアで咳をするとこだまが返ってくるくらい静かになります。水槽の生き物たちは照明の落ちた暗い水槽の中で夜の時間を静かに過ごします。

ナイトウォッチングは「生き物たちの眠り」をテーマに、飼育係の解説を聞きながら閉館後1時間ほど館内を巡る恒例のイベントです。今回は10月の土日祝日に計8回実施し、333人が参加してくださいました。家族連れやカップルなどで参加された皆さんは、眠る魚やカメたちにペンライトの明かりを当てながら、飼育係の解説に興味深く耳を傾けていました。

メールを使って募集を行い、当選確率は20%程度。「3年目でようやく当選」という方もいらっしゃいました。ラグビーワールドカップで日本中が沸いた期間中でしたが、参加者は水族館でクールな時間を過ごされたようでした。

学習交流課 堂崎 正博



千歳鮎とリンと飼育係で記念撮影！
これからも元気に大きくなりますように。



リンの7歳を記念して 千歳鮎を作りました



2012年に名古屋港水族館で生まれたシャチのリンが7歳になりました。生まれた時は体長約2m、体重160~180kgでしたが、現在は体長4.7m、体重1,400kgと大きくなりました。体が大きくなっただけでなく力も強くなったため、これまでよりもジャンプは高く、泳ぐスピードは速くなりました。持ち前の運動能力をいかして公開トレーニングでは迫力のあるジャンプを見せてくれます。

メスのリンが7歳の誕生日を迎えたということで、人間でいえば七五三の年に当たります。そこで、今年は和テイストの水ケーキなどを作ってお祝いしました。さらに、飼育係がパッケージをデザインした千歳鮎をミュージアムショップで販売しました。限定100本でしたが、大好評であっという間に完売となりました。7歳という一つの節目を迎えたリンですが、これから大きくなるにつれてどんどんパワーアップしていきます。リンへの応援をこれからもよろしくお願いします。

飼育展示第三課 大島 由貴



イベント中のペンギン水槽。南極の気候に合わせた水槽内はこれからが夏で、「白夜」を再現するために夜でも照明がついたままです。



このコーナーでは名古屋港水族館で行なわれている保護・研究活動の成果を発表していきます。

昭和基地からの生物輸送

飼育展示第一課 松田 乾

名古屋港水族館では、1992年の開館当初から南極海に生息する生物を展示しています。これらの生物は、飼育係が直接南極キングジョージ島で採集し、飼育してきたものですが、1997年を最後に採集を行っていませんでした。今回は機会に恵まれ、2019年3月、名古屋港水族館としては初めて、南極昭和基地から魚類2種4点(シウワギス3、キバゴチ1)を搬入しました。

これらの魚は、2019年1月中旬、第60次南極地域観測隊の魚類調査チームの方々が、昭和基地周辺の厚さ約1.5mの海氷に穴を開け、釣りで採集したものです。魚は観測隊員とともに南極観測船「しらせ」に乗せられ、3月18日にオーストラリアのシドニー港に到着しました。この間の魚の飼育もすべて観測隊員の方に行っていました。

昭和基地周辺の水温はおよそ-2~2℃です。輸送中も水温を適温に保たなければなりません。「しらせ」の船内では、3℃の冷蔵室内で、魚を入れた容器の周りを大量の淡水氷で保冷しました。淡水氷の融点は0℃なので、氷が解けきらなければ0℃の水温を保つことができます。シドニー港に着くまでは3日おきに淡水氷と飼育水の半量を入れ換えてもらいました。さらに輸送中の水の汚れを最低限に抑えるため、給餌はせず、排泄させないようにしました。南極の魚は代謝が



氷に空けた穴から釣りをする隊員。
第60次南極地域観測隊 夏隊同行者 浅井咲樹さん撮影。

とても低いので、絶食しても健康に問題はありません。私たちはシドニー港で魚を受け取り、そこから日本まで空輸し、無事、水族館に運び入れました。

この昭和基地からの生物輸送は、第60次南極地域観測隊の原田尚美夏隊長、高橋晃周隊員、市川光太郎隊員、西澤秀明隊員、浅井咲樹さん(東京海洋大学大学院)、および南極OB会東海支部、国立極地研究所など、たくさんの方々のお力添えをいただき実現しました。皆様に深く感謝申し上げます。遠い南極から、たくさんの方々の熱い思いのこもった魚たちがやってきました。ぜひご覧ください。

空輸中の南極の魚。
バケツの中のビニール袋の中に魚がパッキングされている。その周りを淡水氷の入ったポリタンクで保冷している。



水族館の水槽に収容した直後のキバゴチ。
約2か月間の絶食で痩せているが、弱った様子はなく、無事に到着した。



わたしのスケッチブック

飼育展示第三課 漁野 真弘

【アシダカグモ】

公園のトイレや街灯の光がうっすらと届く家の軒下に、潜むようなかっこうでくっついている姿をよく見かけるこのクモ!時折、水族館の倉庫にも出没して職員を驚かせていますが、とても優秀な「ゴキブリハンター」で、またの名を“アシダカ軍曹”とも呼ばれています。見た目はグロテスクですがとても大人しい益虫です!!

学生時代、田舎に帰った時に実家近くで捕えて
住んでいたアパートの部屋に放したことがありますが、
ゴキブリ駆除の効果はテキメンでした。





北館2階
水中観覧席

私の館内おすすめポイントは北館2階にある水中観覧席です。ここでは、メインプールの中をゆったりと泳ぐイルカたちを間近で見ることができます。寄り添って泳いだり、泡で遊んだりしている彼らの姿をのんびり眺めていると、気づけば数時間…なんてことも。とても心落ち着く空間です。また、水中観覧席から見るパフォーマンスもおすすめです！水中での躍動感あふれる動きにイルカ本来の力強さを感じられます。特にラストのジャンプの瞬間は圧巻です！



▲高さ4m、幅24mの観察窓があり、階段状の席には柔らかいカーペットが敷いてあります。水槽の中がとても明るく見える、晴れた日の午前中の観覧が特におすすめです。



水族館スクールレポート

令和元年度名古屋港水族館共同研究講演会を実施しました。

海洋生物研究センター 渡辺 格郎



10月20日に北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授の三谷曜子先生をお招きして「北海道でのシャチ研究 なぜシャチは北海道の海にやってくるのか」というテーマで講演会を実施しました。三谷先生のご専門は、海洋生物環境学、海棲哺乳類学、行動生態学です。海棲哺乳類の生態・行動と環境に関する研究をバイオロギング手法などを用いて行うなど、その研究テーマは海棲哺乳類を取り巻くさまざまなジャンルにわたっています。近年では、いろいろな大学の研究者が共同で活動している「北海道シャチ研究大学連合」の主要メンバーとして、積極的に北海道でのシャチの生息地調査を続けていらっしゃいます。



▲ふだんからシャチと接しているトレーナーの話は、シャチの行動について独自の視点からの話で、参加者は興味深く聞いていました。

また、この調査には、名古屋港水族館のシャチトレーナーも参加して野生のシャチを観察する機会をいただいています。

講演会では、まず普段からシャチに接しているシャチ担当の神田トレーナーが現地での観察について報告を行ないました。その後、三谷先生からシャチについて、船からの目視観察や発信器を使った行動調査などさまざまな方法の紹介や、それらの結果から判明した羅臼などでの現在のシャチの出現状況や回遊経路、鳴音・摂餌生態などの最新情報について詳しいお話をいただきました。83名の参加者は、さまざまな動画や写真に目をみはり、先生のお話にうなずきながら熱心に講演を聴講していました。

講演会のアンケートからも満足度は非常に高く、ほとんどの参加者が羅臼の野生のシャチに思いをさせ、これからはシャチがすみやすい環境であってほしいと感じていたと思います。



▲三谷先生には大変熱心にお話をさせていただきました。また、先生は北海道のシャチの生息地調査のためクラウドファンディングで資金調達をされていました。



AQUA INFORMATION

2019年9月～11月

催し物

9月14日 「ペンギンよちよちウォーク」再開(～11/30)

14日 敬老の日関連企画

「ペンギン界で最もながいき(長息)な
エンペラーペンギンの羽」をプレゼント(～9/16)

10月1日 「ハロウィンアクアリウム2019」開催(～10/31)

生物展示 トランスルーセントグラスキャットフィッシュ
ハロウィントルネード(黒潮大水槽)、
ハロウィンダイバー(サンゴ礁大水槽)など



トランスルーセントグラスキャットフィッシュ

5日 「ナイトウォッチング」開催(～10/27の計8回) 333名参加



10月20日 名古屋港水族館共同研究講演会を開催

講師：北海道大学 三谷 曜子 准教授 83名参加

11月9・10・13日 シャチの「リン」誕生日(7才)お祝いイベントを開催

「HAPPY BIRTHDAY! リン」公開トレーニング、
「リン」へ氷のケーキプレゼントなど

23日 「世界が恋する海～座間味村特別展～」開催(～12/25)

26日 「クリスマスアクアリウム」イベント開催(～12/25)
生物展示「アクアリウムグラスツリー」ベタ、アカヒレなど
サンタダイバー(サンゴ礁大水槽)
「マイワシのトルネード」クリスマスバージョンなど



【水族館スクール“もっと知りたい！ダーウィン教室”】

- 9月1日 「さわってさわって！ヒトデとウニのワンダーランド」 小1～3 17名
- 10月6日 「ウミガメの命をつなぐ」 小4～6 16名
- 11月10日 「感じて納得！めざせシャチ博士」 小4～6 15名

生物の出来事

10月4日 バンドウイルカ「カイ」死亡

11月26日 マイワシ15,000尾を追加搬入

来訪者

9月3日 国立遺伝学研究所 酒井 則良 准教授 ほか5名

13日 三重大学 吉岡 基 教授

14日 鴨川シーワールド国際海洋生物研究所 荒井 一利 所長

9月24日 東海大学海洋博物館 秋山 信彦 館長

10月11日 金城学院大学 岩崎 公弥子 教授

11月27日 日本ウミガメ協議会 松沢 慶将 会長 ほか5名

講演・その他の出来事

9月14日 環境デーなごや2019(名古屋市) ブース出展

「ウミガメからのメッセージ ～名古屋港水族館の取り組み～」

17日 宮崎大学農学部海洋生物環境学科(宮崎市)

「水族館学」集中講義 森 昌範

20・21日 第1回国際クラゲ繁殖学会議(鶴岡市)で口頭発表

「名古屋港水族館で発生したミスクラゲの進行性穴あき病と
処置について」 坂岡 賢

10月12日 台風19号の影響のため臨時休館

19日 第3回犬山鯨類脚類行動シンポジウム(犬山市)で口頭発表

「シャチトレーナーが見た自然界のシャチ in 羅臼」 神田 幸司

11月6日 第45回海獣技術者研究会(新潟市)で口頭発表

「CT搭載車を活用した脊椎湾曲バンドウイルカのCT撮影」
大野 佳

20・21日 第119回中部ブロック飼育技術者研修会(岡崎市)で口頭発表

「教育普及活動としての「ナイトウォッチング」の開催について」
市川 集平

30日 2019年度勇魚会シンポジウム(東京都港区)で口頭発表

「トレーナーが見るイルカの行動」 神田 幸司

9月19日

【講演】

第52回名古屋港港湾セミナー(名古屋市) 82名
「名古屋港の外来生物 ～海の中の移住者たち～」 中嶋 清徳

【職場訪問・館内レクチャー】

29件 1,712名
4年生国語教科書「ウミガメの命をつなぐ」(10～12月)
名古屋市内小学校向け
ウミガメレクチャー 17校 1,051名参加

【職場体験】

1件 2名

スマホサイト

<http://www.nagoyaaqua.jp/sp/>
(なお、一部の機種でご覧いただけ場合があります)



表紙生物「シャチ」 *Orcinus Orca*

左がシャチの「リン」と「アーノ」。メロンで2頭シャチを披露。
2019年には11才の誕生日を迎え、アーノは11歳になりました。
大きくなった2頭のシャチはさらに迫力が増えました。

ニューズレター さかなかな Vol.104 2019年 WINTER

発行/公益財団法人名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋港区港町1番3号 TEL.052-654-7080
URL <http://www.nagoyaaqua.jp>

本誌の掲載記事、写真等の無断複製・複製転載を禁じます。